



ジュゴン Vol.120

ちゃんぷるニュース

SDCC 2022. 2. 1
Save the Dugong Campaign Center

CONTENTS

- 2/3 情勢・名護市長選挙報告
- 国際的取り組みの展望と課題
- 4/5 11月政府交渉報告
- 各地の報告
- 6/7 交流広場
- ホープスポット船「希望の海」
- わんさか通信★ジュゴンのわ



本年がSDCCにとって実り多い年でありますよう、又、SDCCの会員並びにご支援頂いております皆様にとって、幸多き年となりますよう祈ります。

復帰50年の沖縄は選挙イヤー。復帰して良かったか否か。まずは、23日の名護市長選で岸本洋平新市長の誕生を祝したかったが、誠に残念。

元日はオミクロン株拡大で辺野古初興しも御願も中止。楽しみにしていたゲート前新春ライブも中止。事件事象吹き荒れる中、寅年で思い起こすのが「トラトラトラ」ニイタカヤマノボシの真珠湾奇襲攻撃。昨年12月8日がその日米開戦から80年であった。だがしかし、日本国民は天皇の国が米軍支配下に委ねられていることも、その為、日米安保や日米地位協定によって起こる人権無視の原因が人災にあることも、未だ知らない。

コロナ禍は天災だが、対策の初動遅れと国威発揚の為のオリンピック強行は人災だった。国民を混乱させ緊急事態条項で9条改憲に持ち込もうとの魂胆を見るも、幸い清潔で我慢強い国民性故うまくいっていない。しかし、既に南西諸島は自衛隊基地化しミサイル部隊も配備された。

2022年。新年を迎えて

それにしても、北朝鮮がしきりにミサイルを打ち上げるのを不思議に思わぬのか。拉致問題は何故解決しないのか。金正恩一族が天皇主権国家復活を狙う安部と手を結び、両者が軍国主義独裁国家護持を図る利害で一致して見えるが、官房機密費は大丈夫なのか。

14日、南太平洋トンガ沖で火山大爆発。16日未明、津波警報発令で気象庁も国民も混乱。その日が名護市と南城市の市長選挙告示日であった。

17日は阪神淡路大震災から27年。震災後、映画「GAMA-月桃の花」で苦労した年でもあった。その前年、自民党の誘いで村山政権が誕生し、先の大戦でアジア諸国に多大な迷惑をかけたことを日本政府として謝罪。しかし、それを国家の恥とする明治の末裔が社民党を潰しにかかったのは言うまでもない。以後、国策不況・不幸の人災が今に続いている。SDCCとしては、先ず嘘の歴史認識を正し、ジュゴンを復活させることに尽きる。それが憲法9条を守ることに繋がり、ジュゴンの海を守ることに繋がると信じる。

海勢頭豊 (うみせど ゆたか: SDCC 共同代表)

[WEB] <http://www.sdcc.jp/>

[EMAIL] info@sdcc.jp

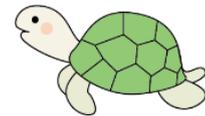
11月26日政府交渉で署名を提出して来ました。参議院会館にて(4面)。



名護市長選挙で玉城デニー知事の応援を受ける岸本候補(2面)。[写真提供: 渡瀬夏彦氏]

情勢 (事務局)

名護市長選挙は敗北 ～全国から不承認の闘いを～



<「辺野古」は全国民の課題>

「軟弱地盤で完成は不可能」「言うべきことを言う」と新基地建設反対を掲げた岸本洋平さん（14439票）が、基地建設を黙認し「基地再編交付金」に依存する現市長（19524票）に残念ですが負けました。過去最低の投票率 68.32%（前回 76.92%）、5085票の大差に名護市民の生活実態が表れています。朝日新聞の世論調査（1月16,17日）では、「移設計画反対」が54%、「賛成」が24%。投票先で重視することは「地域振興策」50%、「移設問題」30%、「政党・団体」9%、「経歴・実績」6%、第6波コロナ感染拡大が名護市民の生活をより厳しくしています。自公政権から名護市民が「基地か地域振興か」の選択を迫られている中、全国民的な運動でしか辺野古問題は解決できません。玉城知事は名護市長選挙敗北に「新基地問題に何の懸念もない。軟弱地盤を抱える工事で完成は不可能だ」と闘う決意を固めています。

<不承認の闘いで9月知事選挙の勝利を>

11月25日玉城知事が沖縄防衛局の設計変更申請を「マヨネーズ状の軟弱地盤」と「ジュゴンに影響を及ぼす作業船の水中音」の「調査不足」を理由に不承認しました。防衛省は12月7日、国

交大臣に行政不服審査制度を乱用した申し立て。沖縄県は1月6日、弁明書を国交省に提出しました。国交省には審査する資格はありません。基地建設推進のために15年度から毎年防衛省に専門家を外向させ（21年度は10人）、15年に地質調査した業者が地盤沈下の恐れがあることを公表せず、共同通信の情報公開請求で明らかになりました。全国知事会は昨年6月、自治体の処分に政府が審査請求などで介入する「裁定的関与の見直し」を求めています。

琉球新報と沖縄タイムス、共同通信の世論調査（1月16,17日）では、設計変更不承認とした県の判断については「どちらかといえば」を含めた支持が57%に達し、不支持33.3%を大きく上回っています。これが名護市民の思いです。政府防衛省は「当初、承認を受けた範囲の工事は進める」と居直っていますが、本体工事の設計変更不承認では「工事完成のメドが立たず、事実上無意味な工事」（玉城知事）です。普天間基地の危険性を早期に除去するためにも、日米両政府は玉城知事と協議を進めるべきです。県知事の設計変更不承認を全国の闘いで支え、9月県知事選挙、名護市議選挙に勝利しましょう。



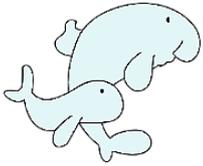
気候変動 COP26と気候正義

世界各地で続く異常気象は温暖化による気候変動が原因です。昨年11月13日、気候変動枠組み条約締約国会議（COP26）では「産業革命前からの気温上昇を1.5度に抑える」。そのために「2050年頃には世界の温室効果ガスの排出量を実質ゼロにする」。国内政策でもある「石炭火力発電を段階的に削減する」ことを合意しました。国際政治を突き動かした力は、ノーベル物理学賞に選ばれた真鍋淑郎など科学者の総意と、若者や途上国、環境団体から「気候正義」を求める運動でした。2週間にわたるCOP26の会場（英国北部グラスゴー）には、政府、企業、NGO、研究機関の代表など4万人が参加。会場の外には気候変動対策の強化を求める10万人のデモ（11月6日）と、世界100か国での行動が取り組まれました。

「気候正義」とは、気候変動で不利益を強いられる側（途上国、若者、貧困層、未来世代など）が、その原因の化石燃料を大量消費してきた側（先進国、大人、権力者など）の責任を問い、不公正を正すという民主主義運動です。COP26は今年末までに各国の2030年目標の引き上げを決めています。日本政府は2030年に向けたエネルギー基本計画「再エネ36%、原発20%、石炭19%」を閣議決定していますが、現状の30%から19%に削減する政策は明らかではありません。また、「再エネを最大限導入しながら、クリーンエネルギーに移行する」と石炭火力維持と原発再稼働を狙っています。許してはなりません。



(事務局 蜷川義章)



2022年の国際的取り組みの展望と課題

明けましておめでとうございます。今年もよろしく申し上げます。

2022年はコロナ感染の再拡大と1月23日の名護市長選挙において辺野古新基地建設に明確な立場を示さない渡具知武豊氏の再選によって始まった。厳しい状況が続くが、それゆえにSDCCをはじめとする市民社会の底力が問われる年になるといえる。以下SDCCの2022年の国際的取り組みについてその展望と課題を示してみたい。

やんばるの森を真の世界遺産へ

一つ目の取り組みは、昨年7月の世界遺産登録を踏まえて、「やんばるの森を真の世界遺産に」するための、ユネスコ世界遺産センターとIUCNへの働きかけだ。まず市民社会からの書簡をこの1月内に送付し、12月までには報告書を作成し提出する予定だ。また世界遺産を監視してきたWorld Heritage Watch(NGO)への協力も視野にいれている。

世界遺産に登録されたやんばるの森だが、米軍北部訓練場が隣接する状況であり、米軍機の騒音が昼夜鳴り響いている。また世界遺産地に組み込まれた「返還地」(元北部訓練場)では、米軍廃棄物が見つかり続けている。そして廃棄物の問題を訴える宮城秋乃さんが沖縄県警に在宅起訴される事態に至っている。

これらの問題は登録過程においてもIUCNやユネスコ遺産委員会に訴えてきたが、解決されないままでの登録となった。市民の失望や懸念も大きい。しかしその一方で、世界遺産に登録されたことで、やんばるの森を「真の世界遺産」という訴えだけではなく、国際社会が作りあげてきたユネスコ世界遺産制度を形骸化させてはいけないという視点からの訴えも可能となっている。

今回の世界遺産センターとIUCNに宛てた書簡は、登録後にSDCCや他のNGOが環境省と防衛省と行った要請交渉を元にして作成した。世界自然遺産条約の運用指針と対比させながら、訓練、騒音、廃棄物の問題を明確に示す内容となっている。

取り組みの課題としては、12月提出予定の報告書の作成のためのモニタリング等の計画や実施を具体的にどう進めていくかが挙げられる。ただこれらの課題も取り組みを進めるなかで解決できると考えている。

辺野古新基地建設阻止に向けて

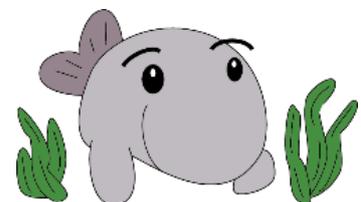
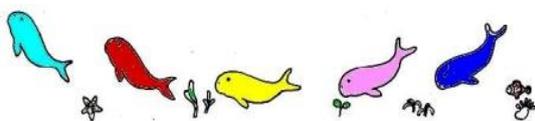
二つめの取り組みは、辺野古新基地建設阻止に向けての取り組みだが、これは昨年11月の玉城デニー知事の設計変更の不承認を踏まえた米国政府への働きかけが中心となる。まずは連邦議会議員や連邦機関への書簡の送付を2月中頃に予定している。送付する議員の選択などは沖縄県とも情報を共有しながら進めてきた。また書簡を使用するの米国市民によるロビーイング、さらには米国での新たな訴公も視野に入れている。

デニー知事の不承認は日本政府の「辺野古唯一」の欺瞞さを明確に暴くことになった。大幅な地盤改良工事が必要であるにもかかわらず、最も軟弱な地点での調査も行われていない。工事の実現可能性自体が疑われている。また環境への影響の予測・評価も、問題だらけの環境アセス(2012年)をリサイクルし「環境に影響がない」としているが、それが問題であることは明らかだ。

ちなみに玉城知事の不承認の焦点の一つはジュゴンへの影響であり、その中でも、工事船の騒音の影響を防衛局が調査していないことが問題とされている。これはSDCCが何度も政府に問い詰めてきた問題であり、その成果が反映されたといえよう。

課題としては、不承認の問題を、どれだけの確、適時に、そしてどう米国政府に伝えることができるかである。そこで注目されるは、連邦議会の調査報告書はすでに軟弱地盤問題に触れているが、国防総省の報告書ではまだ取り上げられていないことだ。なぜ取り上げられていないのか。その疑問を中心に、行政と議会のチェックアンドバランスの関係を意識し、米国市民社会と協力しながらの働きかけが求められている。

(国際担当 吉川秀樹)



政府交渉

11月26日 防衛省・環境省と交渉しました



11月26日、5月に引き続き今年2回目の政府交渉を行いました。紹介議員である伊波洋一参議院議員は、沖縄からのリモート参加でした。

この政府交渉に提出するために、第2次署名キャンペーンとしてネット署名を展開してきました。今回の署名の要求項目は、「環境監視等委員会の3人(ジュゴンなどの海生生物の専門家)の解任を求める」で、33,589筆を防衛省に提出しました。

防衛省交渉では、環境監視等委員会の3人の委員が英国科学雑誌に投稿した「沖縄ジュゴン絶滅論文」問題を取り上げ、3人の委員の解任を厳しく追及しました。しかし防衛省は、「個人としての論文なので、環境監視等委員会とは関係ない」と不誠実な態度に終始しました。

環境省交渉では、沖縄島北部などの世界自然遺産を「真の世界自然遺産」にするために私たち NGO を「世界自然遺産保護のパートナー」であることを確認しました。そのうえで、「世界自然遺産への推薦について米側との合意文書」に明記した「侵略的外来種などの必要な事業を推進する」ために、野生生物への騒音など生態系への影響を少なくするモニタリング計画は作成する。来年12月世界遺産センターに提出するときに、我々 NGO が調査する報告書は前向きに受けとめることなども確認

しました。

政府交渉終了後、議員会館前で開催された「オール沖縄会議と連携した不承認支持」集会(主催:辺野古への基地建設を許さない実行委員会)に参加しました。海勢頭豊共同代表が交渉報告と不承認を支える闘いに向けた決意を発言しました。(首都圏 三村昭彦)



防衛省交渉「ジュゴン絶滅論文」投稿の委員3名の解任を求めました

首都圏

ブルーアクションで、辺野古の海を守ろう!

玉城デニー沖縄県知事の、沖縄防衛局による「辺野古工事の設計変更」の不承認を支持するために、昨年からは繰り広げられているブルーアクションが今年も開始されました。

1月4日、年初の防衛省前抗議行動には、寒い中100人余が参加。「埋めるな連」が行った「不承認支持」のインターネット署名が5万筆を超えたことが報告されました。インドネシア、フィリピン、コンゴ等、海外からの署名もあったそうです。シュプレヒコールで氣勢を上げ、防衛省に申し入れ書を提出しました。

1月7日の金曜日は、官邸前の抗議行動。コロナ禍のため、今年も月曜日と金曜日にスタンディングを続けます。官邸に向けて、沖縄のオミクロン株の感染原因が米軍によるものであることを糾弾してから、前日の雪が残る中、いつものようにギタリストの奏でる音に合わせて辺野古新基地は絶対に作らせないと、「月桃」や反戦歌を歌って抗議しました。

1月8日の土曜日は、新宿駅南口前で、ブルーアクション! 沖縄と連帯して行われるはずだったブルーアクションは、オミクロン株の脅威的な感染で、沖縄の集会は中止されましたが、東京では、約90名の参加者が一列になって、サンゴの

パネルや「辺野古NO!」「辺野古の海をもとに戻せ」などと書いたバナーを持ってスタンディング。エイサーで賑やかに盛り上げてアピールしました。今年も東京から、辺野古新基地を作らせないための活動を続けます。

(首都圏 宮城昭子)



「辺野古NO!」新宿駅南口のブルーアクション



エイサーも登場してにぎやかに宣伝しました



関西

米軍基地がコロナをまき散らしている。 ～「梅田解放区」でアピール～

阪急梅田で毎月第2土曜日に「梅田解放区」というアクションがもう4年間も続けられている。「今の政治や社会への思いを自由にアピールしよう」という有志の行動だ。私も2年前から参加している。新年1月15日の土曜日、今年のはじめての行動に参加した。

その二日前、朝のバラエティー番組で珍しく「沖縄での感染爆発。日米地位協定が問題では」とのテーマでキャスターが、日米と韓米の地位協定に関して比較説明した。韓国では、米軍は出国するときに軍がPCR検査。韓国の米軍基地についたらさらにPCR検査。さらに1週間待機後に活動開始。基地から出る場合は、今度は韓国政府がPCR検査。それでやっと米兵は韓国の町に出られる。日本はどうだ。検査なしで、ほとんどフリーパス。米国から沖縄の在日米軍基地に直行し、そのままマスクもせずに町にでる。感染爆発は当然の帰結だ。基地あるがゆえに沖縄県民の命が脅かされている。私はこの事実を、HEP前を行き交う市民にアピールした。

アピールを終わると「私は在日韓国人だが」という方が話しかけてきた。

「韓国も以前は米軍の横暴がひどかった。長い民主化運動を通じて、対米関係も徐々にではあるが対等にもの言えるようになってきた。日本はひどい。多くの日本人はこの事実を知らない。」

その通り。在日米軍基地が沖縄県民の命を脅かしている。すしでも多くの仲間がこの事実を知ってもらい、辺野古新基地中止と在日米軍基地の撤去へ進んでいきたい。（関西 松島洋介）



「おはよう朝日」が在日米軍と在韓米軍のコロナ感染対策の違いを報じました。米軍内部でのPCR検査に加えて、基地外に出るときには韓国政府のPCR検査で陰性確認が必要。国会で日米地位協定の改定の必要性を追及されると、岸田首相は「在日米軍の活動を毀損するような改定は必要ない」と言い切りました。市民の命より米軍の行動の自由が重要なのです。

PHOTO

11.26対政府交渉と不承認を支持するブルーアクション



環境省交渉 NGOを世界自然遺産保護のパートナーと認めました。



「沖縄はもう捨て石にならないぞ！」新宿駅南口のブルーアクション



政府交渉終了後、議員会館前で開催された「オール沖縄会議」と連携した不承認支持集会で発言する海勢頭豊共同代表

交流広場

首都圏でSDCC も一緒に活動している「宮森 630 を伝える会」のメンバーである水沢さんは、教師を定年後、夜間中学のスタッフとしても活動。在職中から、辺野古に通い続け、カヌーに乗ったり、ゲート前や安和栈橋で体を張って阻止行動したり、伊江島援農なども続けています。首都圏では、新宿西口スタンディングや辺野古報告の企画、講師をして辺野古支援活動を精力的に行っています。辺野古へ行った後は、詳細な活動報告書を発信し続けています。

私が沖縄に通うようになったのは



1995年、小学校6年生の少女を3名の米兵が暴行するという事件が起きた。沖縄県民の怒りは大きく、8万人の県民集会が開かれた。その時、女子高校生が「軍隊のない、悲劇のない、平和な島を返してください」と発言する姿は心に突き刺さるように残った。翌年、平和ツアーに参加し、南部を中心に沖縄を巡る旅をした。その時、見て聞いたことは、沖縄に通うようになった原点かもしれない。「沖縄には他人

に痛めつけられても眠ることはできるが、他人を痛めつけては眠ることはできない」「かわいそうという言葉はないんだよ、共に心痛むというのは「肝苦さん(ちむぐるさん)」

2004年、夏休みに沖縄辺野古に行った。テントでの座り込みが始まっていた。朝はテントを立ち上げる所から1日が始まる。防衛局員が1週間に1度ほど、工事をやらせてくださいと来る。テントのリーダーたちは炎天下、ゴザを敷き、まあ座れ、と座らせる。年配の方たちが、沖縄の歴史、沖縄戦の体験を語り始める。1時間も続いたのだろうか。東京ではありえなかった場面に驚いた。

それから通うようになった。今はカヌーに乗って基地建設反対の行動をしている。キャンプ・シュワブゲート前や安和、塩川には年配の方たちが座り込み、牛歩をする。2度と沖縄を戦場にはさせないと。私もできるだけ共にいたいと思って通っている。(埼玉県在住 水沢登江)

新宿西口スタンディング



長年続けられている取り組みに感謝です！

「沖縄平和ネットワーク大島和典の歩く見る考える沖縄」

大島和典著 (出版:高文研)

本の紹介

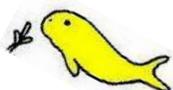
辺野古に通い始めたころ、戦跡巡りなら大島さんのガイドがいいよと教えてもらい、そのうちにとおもっていましたが、叶わぬうちに大島さんはガイドを引退されました。が、単なる戦跡案内ではない「その場で何を学び取るか」を教えてくださいの本が出版されました。

「なぜ南部に行くのか」では、沖縄戦の実相を知り、住民を巻き込む(犠牲にする)地上戦とはいったいどういうものだったのかを学び、命どう宝とは真逆の戦争への道をどう止めるのかを考えるため、現場に立つことが必要だからと語られます。住民を巻き込む戦争、アフガンやイラクもそうでした。これから起こるかもしれない戦争も住民を巻き込むのではないのでしょうか。今、南部の土砂を埋め立てに使おうとしていることが、いったいどういうことなのかを知らねばなりません。

大島さんの語りは「ひめゆりの案内」「平和の

礎を歩く」「魂魄の塔、米須海岸案内」「嘉数高台を歩く」「安保の見える丘案内」と続きます。「24万1593名(2020年6月23日現在)もの「人生」が国家の強制によって断ち切られたのです。それが戦争なのです」「平和学習は生きている限り続くのです」心に残る大島さんの言葉です。これから戦争を体験していない世代になっていく日本で(世界中で戦争や紛争は起こっているけれど)、想像するということがとても重要になるでしょう。現場に立つことが大きな力になると思います。私は、この本を手にも何度も現場に立ちたい。どうぞ一読を。

(関西 池側恵美子)



🐟 ホープスポット船「希望の海」

2022年1月1日、大浦湾にホープスポット船「希望の海」が浮かんでいました。工事船を背にした姿は象徴的です。辺野古・大浦湾は希望の海。米軍基地建設を止めたその先に未来が拓ける！

2019年米環境NGO ミッションブルーによって、日本で初めて辺野古・大浦湾一帯が HopeSpot (希望の海) に認定されました。ジュゴンが棲む生物多様性豊かな海だから、その海を守ろうとする人々がいるから、危機的だけど貴重な守るべき海だからと、世界が認めたのです。



大浦湾に浮かぶ「希望の海」号

去年9月の沖縄県主催のシンポジウムに寄せられた、ミッションブルー代表のシルヴィア・アール博士のメッセージに力が湧いてきます。「気候変動と関連した世界の安全保障という観点からも、海草藻場は非常に重要です」「私たちにできることは、海の生態系を守ること。私たちの心に触れるジュゴンのように特別な力を宿す生きものを守ること」。ジュゴンを追いやり、辺野古の海を埋め立てている場合ではないのです。

HopeSpot 認定を記念して、東恩納琢磨さんを中心に地元の方々力が合わせて、ハーリー船を修復し「希望の海」が造られました。そのニュースにとてもわくわくしています。基地建設を止めれば、ジュゴンは帰ってくる。「希望の海」で未来へ漕ぎ出し、ジュゴンに出会いたい。

(関西 池側恵美子)

※HopeSpot (希望の海) 認定の普及啓発のために、名護市内に看板設置が計画されています。その資金カンパが募られています。詳細は、日本自然保護協会のHPをご覧ください。ご協力を。



🐶 わんさか通信 ★ ジュゴンの🐶

寅年。沖縄の「トゥラー」

2022年寅年のスタートです。

方言でトゥラーと呼ばれる琉球犬、由来は縞模様の虎毛から。我が家にも5才の黒トゥラーの雄がいます。(↓)



元猟犬の血筋だけあり底なしのスタミナに驚異の回復力、筋肉質の体で縄文犬の特徴でもある舌に黒い模様、後ろ足の爪が1本多く、左右の立耳の間が広く漢字の「八」を逆さまにしたようなフォルムを備えた男前犬です。

でも見た目の勇ましさと対照的な甘えん坊でやきもち焼きの性格がたまりません。

復帰50周年「月桃」歌碑建立！

我らの共同代表の海勢頭豊が1982年に作詞作曲した「月桃」。今では慰霊の日に必ず歌い継がれる名曲です。

このたび本土復帰50年を記念した事業として6月を目標に歌碑を建立しようと有志で実行委員会が発足したというではありませんか！大賛成！！

寄付集めなどはこれから検討との事です。

(沖縄 小平裕美)

沖縄タイムスより



INFORMATION

<首都圏・全国>

- ・1/29 新宿デモ 辺野古埋め立て不承認支持！政府は直ちに工事をやめろ！ 1/29(土) 13:00～ 新宿アルタ前集合
- ・新宿スタンディング 2/5(土) 11:00～12:00
主催:関東一坪反戦地主会
- ・政府交渉 4/5(金) (予定)
- ・アースデイ東京 4月16日(土)、17日(日) (予定)

《 今後のスケジュール 》

<関西>

- ・2/11 (金) 玉城デニー知事の不承認を支持するスタンディング
14:00～ 大阪駅前
主催 ; Stop ! 辺野古新基地建設 ! 大阪アクション

※いずれの行動も感染状況によって変更の可能性があります。情報はSNS, SDCCのホームページなどで明らかにします



☆ 大阪で山城博治さんのオンライン講演会 ☆

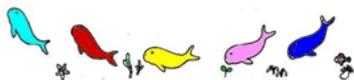
～沖縄・奄美の島々の軍事化を許さない～

1月23日(日)に大阪PLP会館で、山城博治さんの講演会(リモート)を行いました。主催はSDCCも呼びかけ団体に参加する「Stop! 辺野古新基地建設! 大阪アクション」です。コロナ感染急拡大の中でしたが、会場では感染対策を徹底し、山城さんは沖縄からリモートでの講演。さらに今回はYouTubeでのストリーミング配信も行いました。会場には100名、YouTube視聴は100名を超えました。

山城さんは辺野古新基地建設を止める運動とともに、宮古、石垣をはじめとする奄美、沖縄の島々への自衛隊配備が米軍と一体となって中国との軍事的緊張を強め、「第2の沖縄戦」を準備するものだとか危機感をもってお話されました。そして自衛隊配備に反対する幅広い運動体をまず沖縄でつくること、これに連帯する運動体を全国に広げることを訴えられました。

閉会後は梅田までデモ。「デニー知事の変更申請不承認を支持しよう」「沖縄の島々への自衛隊配備をやめよ」と市民に訴えました。

(関西 松島洋介)



「じゅごんの里ツアー」について

コロナ禍が始まった2020年、それまで毎年実施してきた「ジュゴンの里ツアー」は2020年、2021年とも中止しました。今年は実施できることを期待していましたが、米軍由来のオミクロン株の感染急拡大により、残念ですが2022年も中止いたします。来年こそは実施できることを願っております。皆様どうぞご自愛ください。

お詫びと訂正

前号(VOL.119)の記事で以下2点をお詫びして訂正いたします。

①3面左側5段落の1行目“自. 同報告書は…”は“「自然資源・文化資源統合管理計画書」の最新版も開示の対象である。同報告書は…”です。

②5面インタビュー記事「島尻愛子」は「島尻あい子」です。

Editor's Note

名護市長選挙は残念な結果でした。2010年に基地反対の稲嶺進さんが初当選したとき、私も名護にいました。すでに市議会議員だった岸本洋平さんは、早朝から県立北部病院の坂の下の十字路に立って、「公平・公正な街づくりを！基地に頼らず自立してこそ、それができます。」と訴えていました。あれから12年。敗北はしましたが洋平さんは、「地域の皆さんと力を合わせて住み良い名護のまちづくりのために行動して参りたいと思います。」と語り、市民の命とくらしを守る一点で、1mmもふれませぬ。このような候補者を生み出した名護市民にとともに立って、新基地建設を止めたいです。(M)

会費(2000円)&カンパ振り込み先

郵便振替:

加入者名 ジュゴン保護キャンペーンセンター

口座番号 00140-9-660199

他行、コンビニからは: ゆうちょ銀行 ○○八支店

口座番号 普通 8159084

ジュゴンちゃんぶるニュース VOL.120 2022年2月1日発行
ジュゴン保護キャンペーンセンター Save the Dugong Campaign Center (SDCC)
〒162-0815 東京都新宿区筑土八幡町2-2-1
第1千代田ビル301 なかま共同事務所内 TEL/FAX 03-5228-1377
○ <http://www.sdcc.jp/> ○ info@sdcc.jp
(関西連絡先) 〒534-0025 大阪市都島区片町2丁目9番21号京橋ベース
(旧野口ビル) 302 TEL/FAX 06-6353-0514

ちゃんぶるニュース購読会員募集中です。年会費2000円で年6回ニュースをお届けします
お問い合わせは、上記事務所まで。ニュース購読で、あなたもジュゴンサポーターに!



SDCCのwebsite
<http://www.sdcc.jp/>
には、左記QRコードより
アクセスできます